

「在日三代史・未来への夢」

—愛するとき奇蹟は創られる—

高麗博物館名誉館長

文化センターアリラン副館長 宋 富子

みなさまとの出会いを心より感謝いたします。

「命に劣っている、優れている、上品、下品、差なかった。命の形は違っても命の大事さはみな同じ、倅せはみんな倅せにならなあかん。譲らんことは恥やない、譲ってる者から習うたらええ、譲ろうと思う素直な心が宝なんや。無知は自分の責任や、無関心は罪を作ってる。護った者の責任は識らせること、学問するっていうことは命、愛すること習うことやった。在りのままの自分を愛する。愛するとき奇蹟は創られるんや。」

この言葉は講演でのことばです。私が自分の命に、そしてすべての人の命に畏敬の心を持つようになったのは31歳の時、人との新しい出会いで学んでからでした。「自分を愛する、自分を愛するように隣り人を愛する」（聖書）という言葉聞いてからでした。

私は躰中に衝撃を受け心が震えました。この言葉こそ人間の本质であり、生きる目標と指針であると信じました。私は誰れからもそんな言葉は学ばなかったし、ましてや隣人の日本人を愛することなど、とても考えられませんでした。

ですから私は今も人と人との新しい出会いは摂理であり必然と信じて宝にしています。

私は1941年、奈良県の飛鳥地方の自然に囲まれた被差別部落の中で在日二世として20歳まで育ちました。父は働きすぎて46歳で病死、母は36歳でしたが遺された私たち6人の兄妹を一日中、リヤカーを引き、屑買いをして育ててくれました。私は母が自慢で大好きでしたが、日本の小学校に入学するや白い眼を向けられ、貧しさと「チョーセン人」からかわれる中で、私を生んだ母を憎み、命を呪うようになりました。

小学校3年生から自殺未遂ばかりをくり返し、中学校を卒業しても漢字も読めず割り算、掛け算の計算もできませんでした。劣等感の固まりでした。20歳まで22回も仕事を変えました。唯一の夢は日本国籍を取得して立派で上品な日本人になることでした。

ユダヤ人で社会心理学者のエーリッヒ・フロムの言葉に「愛する基本と土台は知ること受け容れるこ

と、愛するにも技術と知識が必要」とあります。

外国人の私がなぜ日本に住むのかルーツも知りません。私は廻りの人々から祖国と日本列島の真実の歴史を初めて学びました。祖父母と両親のルーツを識り涙が止まりませんでした。私の躰中に持っていた劣等感はこの国の文化と教育によって意図的に持つように教育されていたのです。教育の本質は真実（嘘、偽りのない）の歴史と文化を伝えることにあると識りました。私は初めて人間は自由で平等であるという本質を識りました。人間の尊厳、権利と義務、人権を考えられるようになり平和と戦争、正義と悪、真実と虚偽の識別が少しずつできるようになりました。

人は、特に純粋な魂の子どもたちは真実を学ぶことによって知能が正しく働き、人としての想いやりや優しい心、考えが創り出され、知性や理性が発達し高められることを識りました。嘘や偽りの歴史や文化からは人が創り出せる叡智は生まれえないと思えました。

私の命は世界で一つなのです。私は両親から愛されて創られた《愛の子》と識りました。

屈辱のこれまでの人生を恨むより、これからの自分の人生は自分で選択できる。意味のある価値のある人生を夢を持って希望を持ち生きたいと考えました。私の身体の中から初めて生きる希望と愛する勇気がフツフツと湧いてきました。

中国の作家、魯迅の言葉に「奴隷が奴隷であるのは自分を奴隷と知らないから」とあります。現在日本には約60万人（約20万人は韓国からの新一世）近い在日がありますが、85%は日本人と結婚しています。その約90%の人々は差別と偏見によって通称名の日本名を使用しています。日本名は植民地時代に日本政府から強制的に暴力で押しつけられたものでした。奴隷名といっても過言ではありません。

名前は自分を表す大切なものです、私は民族名に戻し4人の子どもに本名を名乗らせました。廻りの人々に支えられ励まされながら民族差別撤廃、人権回復活動に、もう毎日、夢中に関わっていきました。少数であっても関わる日本人学生、市民、教師たちのその真剣な生き様に、初めて日本人を心から信頼し尊敬しました。

私の最も尊敬する一人に韓国の民主化に半生を捧げられた故咸錫憲（ハムソクコン）先生の言葉に「真実は反抗するものだ。逆らいつつ進む、抗議することを知らぬ国は滅びる」とあります。

この言葉は私の生き方の土台になりました。尊敬

する大阪の俳優の新屋英子さんとの出会いで1988年、48歳の時、講演で話すのではなく思い切ってひとり芝居に変えて舞台から「戦争記念館」建設を訴えました。(秀吉の侵略から近代の加害を伝える)日本社会の中で加害の歴史を伝える歴史館は皆無なのを知りました。

時代は変化し文化は発達しても祖国と日本の歴史は歪曲されたままでは、在日との和解や共生は言葉だけにすぎません。会場での募金は何と、1年半で115万円も集まりました。日本人市民と同胞の熱い期待と希望を身体で感じました。

けれども私の躰は長い間の過労と同居する義父と妹の叔母の介護で限界に来ていました。不安な毎日を迎えている時、1990年9月の朝日新聞を読んで嬉しくて心が躍りました。東京都の稲城市で日本人市民グループと在日有志で、日本と朝鮮半島の古代から近代までを伝え、在日の民族差別を知り、共生の社会作りを目指す「高麗博物館をつくる会」が結成されたとありました。翌年に私は入会し、役員を引き受け11年の間舞台から会員や募金を呼びかけしてきました。

2001年、多くの人々の協力と支援で開館し、初代館長を受けました。開館時は27坪のミニスペースで、会員も450名で出発しましたが、現在は900名近くになり、募金者を含めると1200名になりました。ボランティアも50名を超えました。奇跡です。ボランティアを始めスタッフの一人ひとりそれぞれ自分に合った各部門で日々、生き活きと活動され奉仕されている姿はまぶしく館の誇りです。私には祖国がありますが、私のふる里は、私が生まれ育った飛鳥の自然に囲まれた被差別部落です。

私が永住し、愛そうと願うこの国は現在、あの恐ろしい戦前のような状況になっています。近代日本がファシズム、ナショナリズムに走る時は決まって朝鮮、韓国が利用されてきました。

日本の近代史や韓国、朝鮮の歴史がそれを証明しています(明治以降の征韓論等)。日本はここ数年の間に「ガイドライン問題、国旗国歌法、盗聴法、有事法制、教育基本法があつという間に改悪され、政治が子どもの世界を侵しています。外国人の子どもはどんな心で「愛国心」を受け止めるのでしょうか。

今また、政治家は憲法9条を変えて戦争の出来る国作りを防衛のためという嘘で国民を煽動し、戦争の出来る国作りを着々と進めています。国歌を歌わない教師を東京都は400人近くも処分し、200人の教師は裁判で闘っています。全国の良心的な教師は

自死に追い込まれています。マスコミは時代を先取りする報道をしなければならないのに、善良な正義を訴える市民のデモ、集会や運動は報道されません。異常事態です。これまで日本は侵略戦争を推し進めてアジア人2000万人、日本人310万人の命を奪いました。

戦争を遂行する軍隊は人殺しの集団です。政治家の虚偽や異常なマスコミ報道のカラクリを見破る眼を持ち、正す力は歴史の過去、現在の真実を識ることにあると考えます。

在日は長い間、日本社会の中で価値の無い者とされ、差別と偏見を受けてきました。しかし2005年に、民団(在日韓国人民族団体)が在日百年の歴史と生活を識る「韓人歴史資料館」を東京麻布の韓国中央会館に開設しました。多くの修学旅行生、市民が来館されています。

また2006年には滋賀県に住む在日二世の実業家で渡来人クラブ会長の河炳俊(ハピョンジュン)さんが私財で大津駅前に「渡来人歴史資料館」を開設され、多くの日本人の協力で担われています。

在日と日本人市民が困難な社会状況の中にあっても共に民族を乗り越えて信じ合いながら、<民族差別の無い平和を創る>場を発信していることに、私は日本で生きる意味を再発見します。私が自分を愛そうと決めたとき、私の可能性は無限に広がり奇跡ともいえる人生が皆さんに愛されながら生まれました。

皆さんと共に心をついにして<民族差別の無い平和な社会を創りましょう>と信じ合ったことによって「高麗博物館」が開設されました。愛するとき奇跡は創られるのです。

全国の皆さま。アジアの平和のために世界の平和のために当館をもっと発展させたいと願っています。そして祖国や世界の歴史博物館と提携し、世界の人々の協力と支援を受けたいと願っています。私は今、1万人の会員を目指し舞台からまた館での出会いの中で語りかけています。一人からひとりへ呼びかけ誘い合ってください。

人々の真の民主化への勇気と蜂起の力は、史実を正しく識ることにあるのは世界の革命の歴史が証明してくれています。

日本による36年という長い間の朝鮮植民地支配が日本の敗戦により、結果的には朝鮮半島を二つに分断し1000万人の涙の離散家族を生みました。

日本の敗戦当時、在日朝鮮人は約210万人もいましたが祖国の解放という喜びの中で多くの人々は帰国しさまざまな事情で帰国できなかった在日朝鮮人は日本での永住を余儀なくされ60万人が日本に残

りました。

在日朝鮮人は日本政府の巧妙でかつ狡猾な差別政策によって過去の歴史の真実を知らされないままに自己を失い、日本名を余儀なくされ近年にいたっては毎年約1万人近くが日本国籍を取得し現在は約40万人弱になりました。

日本政府が過去の真実の歴史を歪曲し未だに隠蔽し続けるということは子どもたちを欺き人間性を破壊しているということを加害者の側にたつ日本人の誰もが気づかなければならないと思います。

教えないことは大きな罪として反省と和解を遠ざけるばかりでなくさらに大きな罪を生むことになるのです。真実を知らされず優越感だけを持つように教育された子どもはどのような大人に成長するのかは現在の日本社会の中に如実に現れています。

人間の命はすべての命が自由で平等であるという民主主義の原理をしっかりと誰もが自分の魂に刻み込んで生きなければと私は日々考えるのです。人権を尊重しない国は後退し必ず破壊すると思います。

この度、「韓国併合100年市民ネットワーク」が在日、韓国、日本人の人々の力で発足したことに私の心は踊ります。このことは命の尊厳と人権を考える誰もが長い長い間、待ち望んでいたことだからです。祖国、韓国は1960年代からのあの厳しい独裁政権下の中であっても知識人と民衆、学生が一つになり、多くの命の犠牲のうえに1990年代にとうとう「民衆による民主化」を成し遂げました。民主化の国になるということは弱い命が尊ばれ、守られるということです。

その結果、現在韓国にあって日本に無い三つの事があります。

- 一 国家人権委員会 2001年
- 二 在韓外国人処遇基本法 2007年
- 三 外国人地方選挙権 2006年5月31日(アジアで初めて、永住権を持つ日本人50人が投票、日本でも投票)

1965年、国連で人種差別撤廃条約が採択され日本は1995年、つまり30年後にやっと加入しましたが未だ何も決めず外国人をさらに苦しめる非人間的な法改正ばかりを行っています。

日本で百年の歴史を共に生きる在日朝鮮人は現在も人間としての納税の義務は強要されても権利の多くは剥奪されたままです。永住権を持っていても参政権もなく民族学校は各種学校扱い、入学、就職、入居差別等、さまざまな差別に取り囲まれて生きています。

しかしこのような中であっても在日朝鮮人と日本人市民との交流と信頼関係は着実に構築されています。在日朝鮮人の民族差別撤廃運動も多くの日本人市民の支援によって広がり撤廃に至ったこともありました。

朝鮮の言葉の中に「シージャギパニダ!」「始めたらもう半分成功している」という意味です。このネットワークはなんと初めから全国組織で立ち上がりました。私たちはもう一人ではないのです。全国に仲間が《信友》がいるのです。もう私たちは《恨息》(苦しみ嘆きの息)ばかりをしなくてよいのです。

私はこのネットワークこそ世界で人殺しの戦争をしている国々に、非人権化する国々に命の尊さと大切さを伝える《聖火》になると思うのです。私たちの命は《愛されるため》にあるのです。命の存在は平和を創るために、幸福になるために、あるということをネットワークを通して世界の人々に伝播しようではありませんか。

もう私は恐れませんが、皆さんも恐れなくてください。私たちは真実の歴史を明るみに出し《反省と和解》の共生の社会を創るために一つになるのです。社会正義を創り出しているのです。

一人ひとりが自分の起こっている場で、自信と誇りを持って会員を募りましょう!皆で《市民ネットワーク》の歌を作って歌いながら、歓びの踊りを踊りましょうよ!

私たちの歓びの歌声を世界中の人々の心に響かせ、その魂に火をつけましょう。もう平和への扉をみんなで開けているのです。

愛するとき奇跡は創られるのです。「自由で平等、真の民主主義の世界」にするために歴史の究明をはじめましょう!革命は一人から……識った時から、今から今日から自分から、自分が変わることで家族が職場が地域が学校が、社会が変えられるのです。

私たちの命には限りがありますが、人間が本気で求めるとき不可能と思うことが可能に成ることを私は身体で知っています。

私は与えられたこの仕事を崇高と信じて、これからも皆さんと協力して勇敢に担っていきたくて願っています。

皆さんの熱い支援とご協力の愛を信じて。

さあ!皆でしっかりと心をつなげて手を繋いで非暴力でアジアの平和、世界の平和という《夢》を実現して生きましょう!